＜先週の説教から＞

『ヘブライ⑳―私たちの魂をつなぎ留める錨(いかり)』　武田真治牧師

創世記　１５：１～６　ヘブライ書 ６：１３～２０

今日の箇所の直前には「約束されたものを受け継ぐ人たちを見倣う者となってほしい。」とこの書の著者の思いが語られていました。そして、今日の箇所は、その見倣うべき「約束されたものを受け継ぐ人たち」の代表者は、何と言っても“アブラハム”であると。故に、今日の箇所で「神は、アブラハムに約束をする際に」と続けているのです。

ただ、そのような神様から約束を受けた人が、すんなり約束を信じてすぐにその約束が実現したのかと言うとそうではないと。「アブラハムは根気よく待って、約束のものを得たのです」と。この「根気よく待って」という言葉は原文では、ひとつの言葉で（長くとどまり続ける）ことを意味します。約束が実際に実現するまでには、かなりの忍耐と待つ時間が必要であることを信仰の先達たちから学べと！

ただし、アブラハムが“長く待つ”ことが出来たのは、彼が立派な信仰を持っていたからとか、特別な忍耐力があったからではなく、むしろ神様が待つことができるように導かれたからだと続きます。その導きが何であったかを読者に知ってほしいと願っているのです。それが“誓い”という神様の導きです。即ち「神は約束されたものを受け継ぐ人々に、御自分の計画が変わらないものであることを、いっそうはっきりと示したいと考え、それを誓いによって保障なさったのです。」と。神様からの約束を待ち続けることが出来るように、その時々に“誓いという保証”を与えておられるのだと。

例えば、アブラハムの場合、神様の約束は創世記 12 章で与えられました。それに応えて、彼は故郷を後にしたのでした。でもなかなか約束は実現しません、15 章では神様に向かって「あなたはわたしに子孫を与えてくださいませんでした」ともう過去形で語っています。そのアブラハムに対して神様が、彼を外へと連れ出し、天の星を数えさせます。その上で「あなたの子孫はこのようになる」と改めて保障されるのです。これが神様の“誓い”だと。同じような言葉が 17 章にも 18 章にも 22 章等に出て来ます。それが彼を支え、忍耐力を与えたのでした。このような神様の約束と誓いは私たちにも与えられており、それが私たちの「希望」となるのだと！そして「わたしたちが持っているこの希望は、魂にとって頼りになる、安定した錨のよう」だと言われています。私たちがこの世を生きて行く上では、どうしても心騒ぎ、不安と恐れを感じながら生きています。そんな私たちの“魂”をしっかりつなぎ留めて安定させてくれる錨(いかり)になってくれるものが《神様の約束と誓い》という希望なのだと！

“約束”とは、聖書に記されているイエス様の約束の言葉でしょう。「私を信じなさい。」「そうすればあなたも、あなたの家族も救われます」等、その主の約束の言葉を信じて私たちは生きるのです。その私たちに、主は必要な時に様々な形で励ましの言葉や体験を用意してくださっています。それが“誓い”です。洗礼や聖餐、礼拝でのみ言葉等を通して！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

◉聖書研究・祈祷会　Ⅰ．7月 27 日（水）20：00
Ⅱ．7月 28 日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　会堂管理委員会を覚えて
担 当 者：　（水）保坂　　（木）長村
祈 る 人：　西尾さん　　盧さん
ひつじ雲の会　7月 26 日(火)　13：30～

【教勢報告】

主日礼拝　　男 22　女 52　計 74
祈祷会 Ⅰ.　男 6　女 2　計 8
祈祷会 Ⅱ.　男 2　女 8　計 10
日曜学校　幼稚科 7　小中科 13　計 20

【次週礼拝】　7月 ３１日（日）

聖　書：　詩　編　２４：１～１０
マタイによる福音書　５：８
説　教：「詩 編㉔ ― とこしえの門よ、身を起こせ！」　武田 真治 牧師
讃美歌：　１２２(1)、３２(1)、５２４(1と2)、５７３(1と2)、８８

【次週当番表】

司式:岩佐長老　奏楽:須田　礼拝:坂田長老
献金：高橋　高村　受付：東　佐々木
会堂準備：東　阿部　伊藤　伊藤　岩井
看板：中村　週報：飯島　お花：飯島

【次週集会予定】礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会

６３－３０

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　　７月　２４日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/